東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 12 月 10 日

離婚

親愛なるムスリムの皆様。アッラーのご満悦を得ることを求めて行なわれる婚姻は、それ自体が一つのイバーダです。家族の為になされる支出はサダカのうち最も徳のあるものの一つです。家庭は神聖な一つの安住の場です。このような神聖さを秘めた結婚が、合法ではない理由によってだめになってしまうことは、人々の心に荒廃を、思考に離脱を、感情に腐食をもたらすものとなります。

崇高なイスラームの教えが継続することを求めている家庭が、ふさわしくない、不必要な要因によって破壊され消滅することは、社会的な災いとなります。離婚率は近年、残念ながら深刻な形で上昇しています。家庭のあり方は残念なことに大きな火の車の中に引きずり込まれています。

預言者ムハンマドが「アッラーの位階において最も好まれないハラール」とされている離婚により、民族としての、そして精神的な感情が弱められ、気持ちとしても予想外の悪い結果に直面して傷つくことになります。家庭の崩壊は夫婦以上に、子供にとって最大の破壊となります。

親愛なるムスリムの皆様。民族としての、そして精神的な私たちの価値があたかもダイナマイトで爆破されてしまうような意味になる離婚の主要な原因は、自己中心主義、敬意の欠如、無責任さ、先人の経験を生かすことの欠如、そして精神的な不足です。経済的な問題、家庭内暴力、そして家族関係の破綻もまた離婚の要因となる諸問題です。あたかもハリケーンのような力で離婚を引き起こす、通信手段の誤った目的の為の使用もまた深刻な問題です。メディアもまた、家族に関する非道徳的な内容の放送、合法ではない生き方への刺激を与えるという点で、離婚の起爆装置に着火する重要な要因であることは疑うべくもないでしょう。

親愛なるムスリムの皆様。私たちの崇高な書クルアーンは、家族が幸福な形で継続し、家庭崩壊から救われる為の多くの重要なアドバイスを含んでいます。ある章句では、「できるだけ仲良く、かの女らと暮らしなさい。あなたがたが、かの女を嫌っても（忍耐しなさい）。そのうち、（嫌っている点に）アッラーからよいことを授かるであろう。」（婦人章第 19 節）と命じられています。

幸福な結婚生活を築き、離婚を防ぐことは、自己犠牲、忍耐、感謝、責任感、満足、敬意、感情、権利の尊重、そして細やかさといった道徳的、人間的に尊い特性を持つことによって可能となります。敬意と愛情という基盤の上に成り立つ家庭は、現世にそってのみではなく、来世をも鑑みて築かれることがとても重要です。家庭という点で最も尊い模範は、諸世界への慈悲である預言者ムハンマドです。そのお方の生き方を学び、その徳を身につけることは、私たちの家庭にやすらぎをもたらすでしょう。

フトバを、預言者ムハンマドの離婚についての警告で締めくくりたいと思います。「結婚してください。（しかし、合法な理由がない限り）離婚しないでください。確かに離婚によって崇高なる天の位階が震えるのです。」